

横須賀港港湾環境計画

令和2年度年次報告書

(令和3年度版)

横 須 賀 市

目 次

第1章 横須賀港港湾環境計画の概要	1
1 計画の目的	1
2 計画の位置付け	1
3 計画の考え方（基本構想）	2
4 基本理念と基本方針	
(1) 基本理念：市民との協働による「エコタウンポート」の形成	2
(2) 基本方針	2
(3) 3つのエリアの設定	3
5 5つの「基本目標」と16の「推進施策」	5
(1) 基本目標	6
(2) 推進施策	7
6 3つの「重点施策」	11
7 計画の進行管理	12
第2章 施策の進捗状況	13
1 5つの「基本方針／基本目標」の進捗状況	14
(1) 市民協働による推進／多様な主体（市民、市民活動団体、学校等） との協働による取り組みを進めます	14
(2) 利用と環境の調和／市民等が海を身近に感じ、海に親しめる機会 を創出します	14
(3) 快適な生活環境の形成／市民が安心して暮らせるまち、市民が憩 える水辺空間を創出します	15
(4) 海の環境再生／水質・底質及び生物多様性・生態系の保全・再生 を進めます	15
(5) 活力あるまちの創造／横須賀の資源（景観・歴史、ブランドなど） を活かした海の魅力の発信を進めます	16
2 16の「推進施策」の進捗状況	
(1) 地域や学校の中で海に親しめる場をつくろう	17
(2) 海に関するネットワークづくりを進めよう	23
(3) 横須賀港の自然環境を学び、海に触れてみよう	25
(4) 海や港湾に携わる人々の仕事や役割を知ろう	29
(5) 魅力あるイベントを開催し、人々の交流を推進しよう	29
(6) 海のレジャーやレクリエーションの場をつくろう	33
(7) 市民の憩いの場となる親水性の高い水辺空間をつくろう	35
(8) 東京湾を一望できる、潮風を感じる砂浜をまもろう	35
(9) 海とともに安全・安心に暮らそう	35
(10) 海辺や海上の美化を推進し、海に対するマナーの向上を図ろう	37
(11) 海のゆりかご アマモ場をはぐくもう	39
(12) 良好な自然環境を子どもたちに引き継ごう	41
(13) 横須賀港の景観、歴史、遺産に触れよう（学ぼう）	43
(14) 海上アクセスによる交流を促進しよう	45
(15) 東京湾の海の恵みを地産地消に活かしていこう	47
(16) 海を活かした産業を活性化しよう	47
3 重点施策の進捗状況	49

第1章 横須賀港港湾環境計画の概要

1 計画の目的

横須賀港は観音崎や猿島をはじめとする海岸や緑に恵まれ、親水性の高い水辺空間があり、港湾の発展と自然との共存が可能な臨海部空間を有しています。

また、米海軍や海上自衛隊の施設などが立地する特有の景観を持つとともに、浦賀、猿島、観音崎などの自然・歴史的資源、ヴェルニー公園や三笠公園などの憩いや散策の場などさまざまな利用がされています。

本市では、こうした大切な財産である海の魅力を一層向上させるとともに、貴重な自然を未来に引き継ぎ、東京湾の環境再生に寄与するために、横須賀港沿岸域の環境のあり方と今後推進すべき施策や取り組みの方向を示した本計画を平成17年3月に策定しました。

2 計画の位置付け

本計画は、環境基本条例第9条に基づき策定した本市の環境行政のマスタープランである「横須賀市環境基本計画（2011～2021）」及び港湾法第3条の3第1項に基づき策定した「横須賀港港湾計画」の下位計画として位置付けています。（図1）

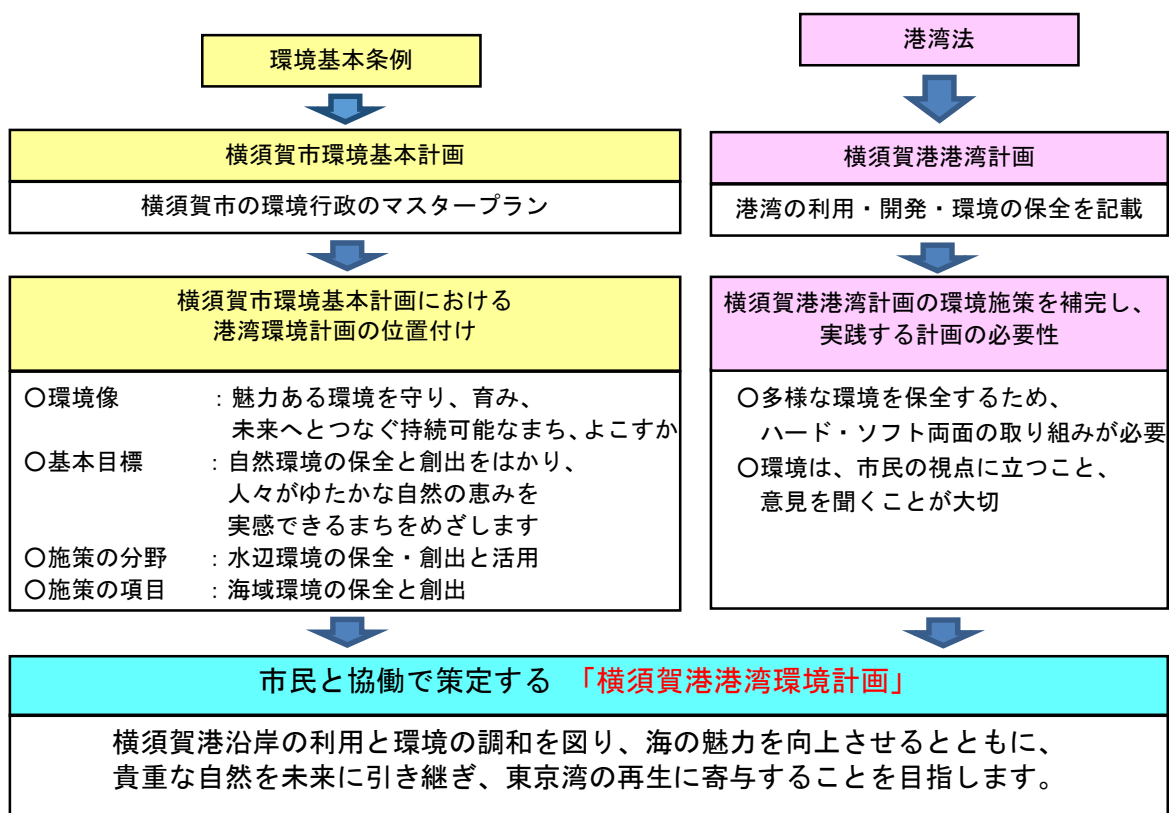


図1 横須賀港港湾環境計画の位置付け

3 計画の考え方（基本構想）

この計画では、横須賀港の具体的な環境施策の基本となる「市民との協働による“エコタウンポート”の形成」を基本理念とし、横須賀港とその周辺の環境特性と本計画が目指す沿岸環境のあるべき姿から「基本理念」や「基本方針」を設定し、実践することで港湾環境の保全・再生を図っていきます。

4 基本理念と基本方針

（1）基本理念：市民との協働による「エコタウンポート」の形成

横須賀港は、港、海、自然、文化、歴史の面で、独特で多様な環境を有していることから、これらを活かして、港及び都市と環境が調和した横須賀特有の沿岸域を形成するため、市民と行政が協働で「再生・活生・共生」に取り組み、人々がこれを楽しめるとともに、まちづくりに貢献する“みなと”（エコタウンポート）を目指します。

（2）基本方針

①市民協働による推進

エコタウンポート形成に向け、市民と行政が協働して進めることのできる体制づくりや情報ネットワークの形成を図るとともに、協働による港湾環境施策の検討、実施、運営等を実現します。

②利用と環境の調和

横須賀港臨海部は、物流や産業の場、市街地として利用されるとともに、防衛施設などが立地し、また、海域は船舶航行、漁業、レクリエーションなどの利用がなされる中で、こうした利用と横須賀港の多様な環境特性との調和のとれた両立が求められています。横須賀港の利用に際しては、良好な環境に向けて環境保全等への配慮を行うとともに、横須賀港の豊かな環境を活かしながら、市民の海への意識や理解の向上に資するよう、海に親しめる機会の創出を図ります。

③快適な生活環境の形成

人々が海を眺め、近づき、ふれあうことができるよう水辺空間の開放を進めるとともに、緑による都市温熱環境の緩和や適正な沿岸管理等により環境負荷を減じ、快適で暮らしやすい環境を形成します。

④海の環境再生

自然の海岸線や植物帯など東京湾に残された貴重な自然環境を保全するとともに、生物生息に適した環境を修復することで、海が本来持つ浄化機能や生物を育む機能の向上を図り、海域環境の再生を図ります。

⑤活力あるまちの創造

本市の持つ港、海、自然、文化、歴史等を資源とし、これらの保全・再生を進めつつ積極的に活用し、人々が交流する活力あるまちを創造します。

また、エコタウンポータの実現に向けては、これらの資源をブランドとして高め、これを港湾環境施策に役立てるなど、環境の再生・活生・共生に寄与する仕組みを検討します。

※語句の定義

市民：協働の対象としての市民は、個人としての市民はもとより、関連する主体として、事業者、漁業者等海域の利用者、市民団体、NPO等を包括する。

人々：市内に居住する人、市内で働く人及び来訪者など、ある環境に関わるすべての人。

ブランド (brand)：商標、銘柄、(心に) 強く刻みつける、語源的には「焼印」から派生した語（横須賀のブランドとしては、海軍、開国の地、東京湾に残された自然、カレーなどさまざまなものが考えられる）。

(3) 3つのエリアの設定

横須賀港は13の地区に分かれていて、環境には地域的な違いがあります。地域の環境や特性に合わせて、横須賀港を「再生」、「活生」、「共生」の3つのエリアに区分し、それぞれのエリアの環境特性を活かした「基本方針」を設定した上で、さまざまな施策を推進していくこととしています。(図2)

「横須賀港」は次の13の地区で構成されています。

- | | | | | |
|---------|----------|---------|--------|---------|
| 1 追浜地区 | 2 深浦地区 | 3 長浦地区 | 4 本港地区 | 5 新港地区 |
| 6 平成地区 | 7 大津地区 | 8 馬堀地区 | 9 走水地区 | 10 鴨居地区 |
| 11 浦賀地区 | 12 久里浜地区 | 13 野比地区 | | |

※本計画では、横須賀港の港湾区域外も共生のエリアに含めているため、「野比地区」を、「野比から津久井浜周辺」としています。

①再生のエリア（追浜地区～新港地区）

人々が利用できる開放された水際線が少なく、横須賀港の中でも水質・底質が良好とは言えない海域であることから、企業、防衛施設等との調整を行い、水辺空間の開放を図るとともに、開放可能な水際線における近自然的な施設の整備等を進め、自浄機能や生物生息環境の向上を図り、もって市民の海に対する関心を高めつつ、エリア内の環境の再生を進めます。

②活生のエリア（新港地区～走水地区）

中心市街を背後に控え、新港から走水に至る広く開放された水際線を持つ特色を活かし、近自然的な施設の整備等による海域環境の修復を図るとともに、猿島、走水等を中心とした現存の海岸、植生、藻場等の維持・修復、歴史資産の保存を進め

ることで、浄化、生物生息、親水、交流、景観、レクリエーション等という環境における総合的な要請に応え、海に親しむ活動（環境学習、平和教育、水遊び、散策等）の場として積極的に活用します。

③ 共生のエリア（走水地区～野比から津久井浜周辺）

東京湾口部に含まれ、横須賀港の中で比較的良好な水質が保たれた走水周辺、観音崎周辺、燈明堂周辺、海瀬島^{あしか}周辺、野比から津久井浜に至る海岸と藻場が残る環境と、港湾等の利用との調和を図りつつ、積極的に保全するとともに、自然を体感（自然観察、環境学習、海洋性レクリエーション等）する場として活用します。また、浦賀、久里浜では歴史遺産の保存を図りつつ、諸環境の復元・修復を進め、エリア全体の環境保全とその活用を図ります。

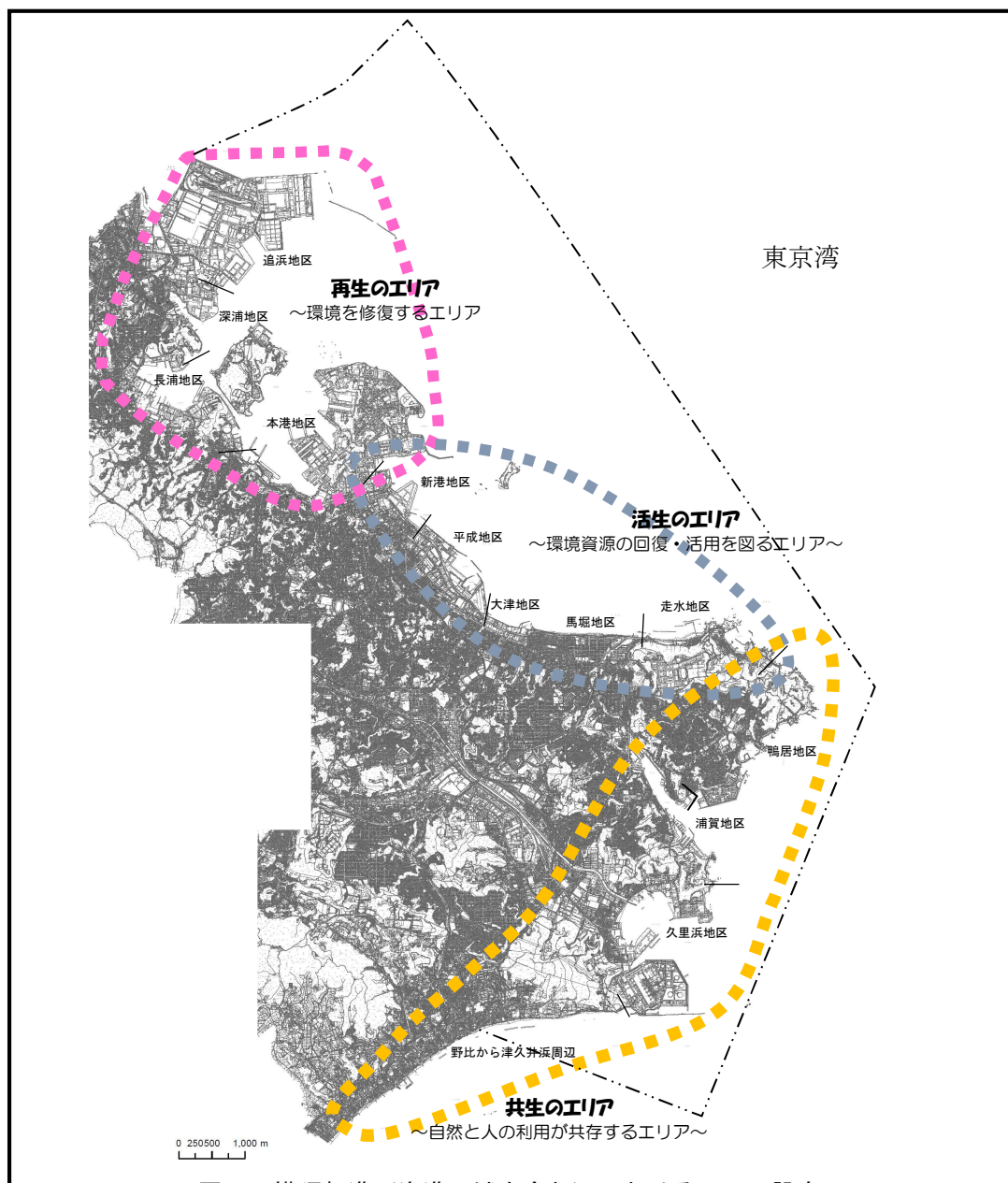


図2 横須賀港（漁港区域を含む）におけるエリア設定

5 5つの「基本目標」と16の「推進施策」

これまでの計画は、17の「先導的取り組み」及び6つの「行動計画」を中心に取り組みを進めてきましたが、全体像を把握しにくい計画体系で、また、各地区特有の取り組みとしているため、他の地区での取り組みや地区を跨いだ取り組みを適切に評価することが難しいという課題がありました。このため、計画体系の考え方を「下からの抽出」から「上からの落とし込み」へと変更し、5つの「基本目標」と16の「推進施策」へと変更し、再構成しました。

「基本構想」を実現させるため、「基本理念」や「基本方針」に基づいた施策や取り組みを「行動計画」として位置付け、進めるに当たっては、「できることを、できることから、継続して」を基本的な考え方としています。

この基本的な考え方を踏まえた上で、行動計画に位置付けた施策や取り組みの進むべき方向性を示し、この目標の達成に向けた個々の施策や取り組みを示すことにより、本計画全体を推進していく必要もあります。

こうしたことから、13の地区ごとの地域特性を踏まえ、横須賀港全体での取り組みを推進するための「基本目標」を設定しています。

また、本計画全体の「基本方針」及び行動計画における「基本目標」に基づき、目標の達成に向けて推進していくべき施策や取り組みを「推進施策」として位置付けています。

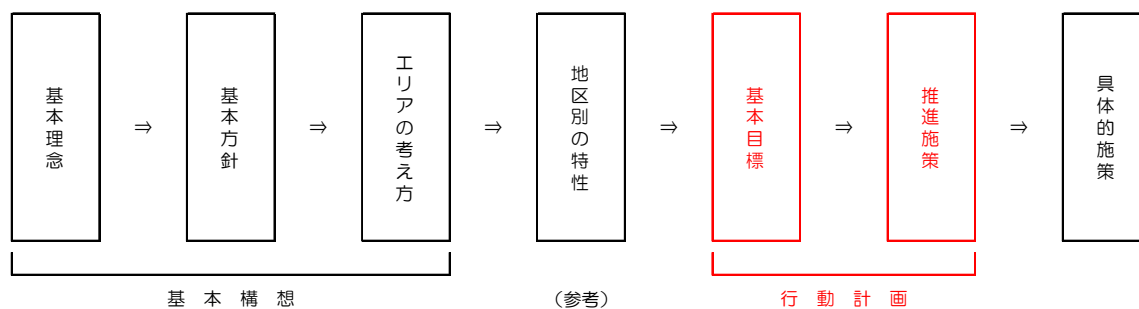


図3 計画の体系図

(1) 基本目標

i 多様な主体（市民、市民活動団体、学校等）との協働による取り組みを進めます

【対応する基本方針：Ⅰ 市民協働による推進】

海、沿岸域、港に対する関心を高めるため、行政だけではなく、市民、市民団体、地域、学校など多様な主体と連携・協力するとともに、持続した活動ができるよう、協働あるいは役割分担をして取り組みを進めます。

ii 市民等が海を身近に感じ、海に親しめる機会を創出します

【対応する基本方針：Ⅱ 利用と環境の調和】

さまざまな可能性を持つ海の資源を人々の豊かな暮らしに活かしていくためには、市民が海を身近なものとして感じ、海についての理解を深める必要があるため、海を知り海とふれあう機会を創出します。

iii 市民が安心して暮らせるまち、市民が憩える水辺空間を創出します

【対応する基本方針：Ⅲ 快適な生活環境の形成】

平成 23 年 3 月の東日本大震災の甚大な津波被害は、人々に自然の脅威を実感させる結果となりました。しかしながら、海は私たちに豊かな暮らしや憩いをもたらすものであることから、市民が安心して暮らすことができるよう、適切なハード整備を進め、それに併せて、市民が憩える水辺空間も創出します。

iv 水質・底質及び生物多様性・生態系の保全・再生を進めます

【対応する基本方針：Ⅳ 海の環境再生】

東京湾口部に位置する横須賀港は、水質・底質について比較的良好な状態であるものの、横須賀港には埋立地が多く、直立の護岸が中心となっていることから、浅場や干潟などの多様な生物が生育可能な環境が不足している状況にあります。

こうしたことから、沿岸構造の改善や浅海域の再生を図ることにより、生物多様性や生態系の保全を進め、海域環境のさらなる改善を図ります。

v 横須賀の資源（景観・歴史・ブランドなど）を活かした海の魅力の発信を進めます

【対応する基本方針：Ⅴ 活力あるまちの創造】

三方を海に囲まれた横須賀は、歴史的にも海とともに発展してきた都市であり、こうした軍港としての歴史を持つことや東京湾口部に位置する自然豊かな海の景観は本市の特徴です。

こうした海に係わる歴史や景観、そこから生まれるブランドを活かし、海の魅力を発信していきます。

(2) 推進施策

■基本方針Ⅰ 市民協働による推進

基本目標ⅰ 多様な主体（市民、市民活動団体、学校等）との協働による取り組みを進めます

推進施策①

地域や学校の中で海に親しめる場をつくろう

市民協働によりエコタウンポートの形成を図る上では、子どもたちを中心とした市民に海を身近に感じてもらうことが大切です。そこで、NPO法人、事業者（漁業協同組合等）を含めた地域や学校と連携しながら、市民に身近なところに海に親しむことができる場を創出し、海とふれあう機会を設けます。

この推進施策を進めるに当たっては、行政が市民活動を支援する方法と行政と市民が一緒に取り組む方法の2つの方法が考えられ、それぞれの状況に適した手法を取ります。

推進施策②

海に関するネットワークづくりを進めよう

海に関する活動を行う市民団体や地域団体などの多様な主体が互いの活動を知り、連携を図る機会を設けるため、海に関するネットワークづくりを推進します。

■基本方針Ⅱ 利用と環境の調和

基本目標ⅱ 市民等が海を身近に感じ、海に親しめる機会を創出します

推進施策③

横須賀港の自然環境を学び、海に触れてみよう

横須賀港には豊かな自然が残され、さまざまな形でその環境を学び、海とふれあうことができます。こうした環境を活かし、海とふれあうとともに、横須賀港の自然環境について学習する機会を創出し、港湾における自然環境に対する意識の向上を図ります。

推進施策④

海や港湾に携わる人々の仕事や役割を知ろう

港湾にはさまざまな仕事があり、多くの人々が従事していますが、その多くは日常生活の中ではあまり知られていないのが現状です。特に本市には全国でも稀有な海洋に関する研究施設が複数立地しているほか、製造業、物流業、海運業などの多様な企業も立地し、一方では漁業も盛んに行われています。

こうした企業等でどのようなことが行われているかを紹介することで、生活に密着した大切な仕事である港湾に関わる仕事を市民に理解してもらうための施策を進めます。

推進施策⑤ 魅力あるイベントを開催し、人々の交流を推進しよう

港は市民にとっての憩いの空間となる場所であり、そこで行うイベントは、さまざまな社会的属性の人たちが交流する場となります。魅力的なイベントを数多く行うことで、人々の交流を促進し、街の賑わいづくりに貢献します。

推進施策⑥ 海のレジャーやレクリエーションの場をつくろう

海の持つさまざまな側面の1つに、レジャーやレクリエーションなどの余暇活動の場という面があります。横須賀港の水際線は企業や防衛施設が占める部分が多いものの、一方では自然海岸や公園など、人々が憩いの場として海に親しむことができる場所もあることから、こうした場所を活かした余暇活動の仕組みづくりを積極的に行います。

■基本方針Ⅲ 快適な生活環境の形成

基本目標Ⅲ 市民が安心して暮らせるまち、市民が憩える水辺空間を創出します

推進施策⑦ 市民の憩いの場となる親水性の高い水辺空間をつくろう

身近に海とふれあえる環境があることは、生活に潤いをもたらします。横須賀港の水際線は企業や防衛施設の占める部分が多く、パブリックアクセスの改善が必要です。関係機関との連携や調整を図り、市民の憩いの場となる親水性の高い水辺空間の充実を図ります。

推進施策⑧ 東京湾を一望できる、潮風を感じる砂浜をまもろう

横須賀市から三浦市にかけては連続した広大な水辺空間が形成され、東京湾を歩きかう船舶を見ることができ、潮風を感じることができる場所となっていますが、近年は海岸侵食が見られることから、侵食対策を進め砂浜を守ります。

推進施策⑨ 海とともに安全・安心に暮らそう

平成23年(2011年)3月の東日本大震災の甚大な津波被害は、人々に自然の脅威を実感させる結果をもたらしました。津波や高潮からの被害を防ぐための対策を推進することで、人々の生活に安全をもたらし、安心して暮らせる街づくりを進めます。

■基本方針Ⅳ 海的环境再生

基本目標ⅳ 水質・底質及び生物多様性・生態系の保全・再生を進めます

推進施策⑩

海辺や海上の美化を推進し、海に対するマナーの向上を図ろう

海辺や海上が美しく保たれることは、人々に海の素晴らしさを伝える原動力となり、ひいてはそのような海を守る気持ちに繋がり、海に対するマナーが向上するという好循環をもたらすことから、さまざまな場所で、さまざまな主体により、海辺や海上の清掃活動等を推進します。

推進施策⑪

海のゆりかご アマモ場をはぐくもう

稚魚や幼魚にとって隠れ場となるアマモ場を保全することで、周辺の海域における生物の多様性が高まり、より質の高い環境へ移行することが期待できることから、アマモ場や砂浜などの自然環境の保全を図ります。

推進施策⑫

良好な自然環境を子どもたちに引き継ごう

横須賀港の自然環境を後世に引き継ぎ、良好な自然環境を市民が体験できるようにするため、本市に残された貴重な自然環境を保全・継承するための取り組みを進めます。

■基本方針Ⅴ 活力あるまちの創造

基本目標ⅳ 横須賀の資源（景観・歴史、ブランドなど）を活かした海の魅力の発信を進めます

推進施策⑬

横須賀港の景観、歴史、遺産に触れよう（学ぼう）

横須賀は横須賀製鉄所（造船所）の開設以来、海とともに発展してきた街です。横須賀港にはその歴史の中で発達してきた独自の景観、遺産が数多く残っています。これらを活用した取り組みを進めることにより、活力あるまちづくりを進めます。

推進施策⑭

海上アクセスによる交流を促進しよう

本市は三方を海に囲まれていることから、港を活用した海上アクセスのルートの整備を進め、交流人口の増加による街の活性化を進めます。

推進施策⑮

東京湾の海の恵みを地産地消に活かしていこう

東京湾で獲れる新鮮な魚介類は江戸前と呼ばれ、1つのブランドになっています。横須賀港でも多くの魚介類が水揚げされていることから、こうした地場の魚介類を広く市民に知ってもらい、「食」という誰にでも親しみやすい分野から海についての理解を深めます。

推進施策⑯

海を活かした産業を活性化しよう

横須賀港には13の地区があり、それぞれ異なる特徴があります。その中で新港地区や久里浜地区には大型の貨物船が着岸できる岸壁が整備されていることから、物流を中心に、観光も含めた産業の活性化を推進します。

6 3つの「重点施策」

(1) 重点施策設定の趣旨

行動計画における「推進施策」では、具体的施策や取り組みを位置付けていますが、行政計画としての具体性を持ち、また、行動計画における各基本目標、各推進施策を横断的に牽引し、今後、本計画全体の施策推進の底上げとなるようなシンボリックな施策を「重点施策」として位置付け、計画全体の推進を図ります

(2) 重点施策

■重点施策 1

市民、市民団体、地域、学校などとの協働、あるいは、役割分担により事業を推進します。

市民が海に親しむ機会を創出するために、行政だけではなく多様な主体が連携・協力することで、相乗的、副次的な効果も期待できることから、協働により将来を担う子どもたちを中心とした市民に対する海への理解の促進・海での体験の機会の創出を図ります。

■重点施策 2

人々が海に親しめるよう、浅海域の再生を進めます。

横須賀の大きな環境資源である海は市民にとって大切な財産であり、海に直接触れ合える場を創出することは、市民が海への理解を深め、より一層親しみを感じることに繋がります。こうしたことから、横須賀港において浅海域の整備を進めるとともに、市民、市民団体、関係事業者や行政機関と協働しながら、整備後の利活用や管理を行っていきます。

■重点施策 3

港湾区域を中心とした地域の活性化に繋がる港湾整備を進めます。

港湾機能として物流や人流を促進することに加え、観光による交流人口の増加に資するよう、港を中心とした地域の活性化を進めます。市民が地域、学校などで、海を利活用した学習会・講習会などを実施する際に、専門的知識や経験を有したガイドを利用できる仕組みづくりを検討します。

7 計画の進行管理

本計画の施策や取り組みの進捗状況、目標・指標の達成状況などを把握するため、庁内関係部局の事業実施状況の調査を行うとともに、庁内の関係課長で構成する「港湾等に係る計画推進検討会議」において情報共有を図り、必要に応じた検討を進め、その結果については、毎年度、年次報告書を作成し、市民や関係機関等に対して配付・公表を行います。

第2章 施策の進捗状況

この章では、計画に基づき、令和元年度に実施した施策や取り組みを中心として、5つの「基本方針／基本目標」、16の「推進施策」、3つの「重点施策」ごとにまとめ、記載しています。

なお、16の「推進施策」は5つの「基本方針」「基本目標」に基づき、推進施策と具体的な取り組みを落とし込み、優先的に「できることを、できるところから、継続して」を基本的な考え方としていることから内容としては重複していますが、より分かりやすい記載としています。

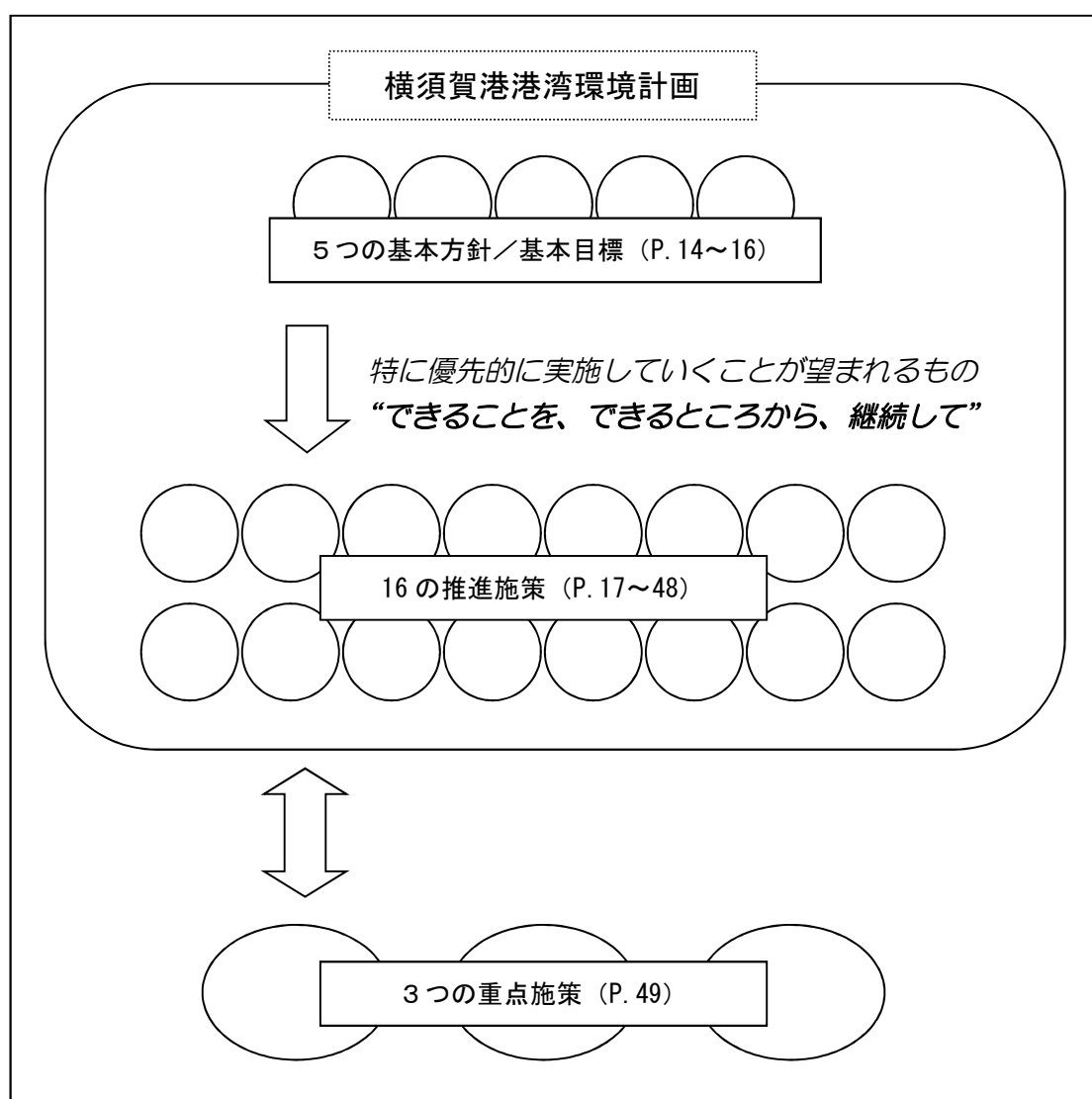


図4 進行管理の対象

1 5つの「基本方針／基本目標」の進捗状況

ここでは、5つの「基本方針／基本目標」(P.6)ごとに、令和2年度に行った主な施策や取り組みの進捗状況をまとめていますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、中止や縮小された事業が多くありました。

①市民協働による推進

多様な主体（市民、市民活動団体、学校等）との協働による取り組みを進めます

エコツアー推進事業

- ・エコツアー実施団体と協働で、猿島、観音崎、大楠・西海岸、長井・荒崎の4フィールドで、エコツアーを189回実施

クサフグの産卵観察会

- ・地元自治体や指定管理者と協働で、深浦ポートパーク内の岩場に集まるクサフグの産卵の観察会を実施
【中止】

海の観察会の実施

- ・よこすか海の市民会議と協働で、走水海岸で、スノーケルや箱メガネを使った海の生き物の観察会を実施
【中止】

②利用と環境の調和

市民等が海を身近に感じ、海に親しめる機会を創出します

猿島自然観察会

- ・子供たちに体験型環境教育(フィールドワーク)の機会を提供するため、猿島で自然観察会を計2回実施
参加児童数：計106人
先生：計8人

うみかぜカーニバル

- オンラインイベントとしてボートクルージング体験等を実施。
参加者数：72組126名

ウインドサーフィンワールドカップ

- ・津久井浜でワールドカップを開催し地域の活性化を図った
- ・NPO法人の設立など地元の新たな取組もはじまってきている
【中止】

③快適な生活環境の形成

市民が安心して暮らせるまち、市民が憩える水辺空間を創出します

浅海域保全・再生事業

- ・海と触れ合う場の創出や良好な海辺環境の保全・再生のため浅海域及び付帯施設の整備を実施し、整備後に経過観察を実施

長浦地区港湾緑地整備事業

- ・市民が海を身近に感じる水辺空間創出のための港湾緑地の整備について、土地所有者や利用者との協議・調整を実施

大津地区港湾海岸高潮対策事業

- ・港湾海岸高潮対策として、大津地区の護岸の整備を実施

④海の環境再生

水質・低質及び生物多様性・生態系の保全・再生を進めます

走水伊勢町海岸の清掃

- ・近隣の小中学生を中心としたボランティアが海浜地の清掃を実施
【中止】

砂浜美化ボランティア活動

- ・横須賀市まちかど里親制度を利用して、市民ボランティアが海浜地の清掃を実施
【中止】

「よこすかのかんきょう」の作成・配布

- ・環境について子供向けにわかりやすく解説した冊子「よこすかのかんきょう（平成30年度版）」を230冊配布

⑤ 活力あるまちの創造

横須賀の資源（景観・歴史、ブランドなど）を活かした海の魅力の発信を進めます

記念艦「三笠」 の展示・公開

- ・ 明治時代に竣工、大正時代に記念艦として保存、昭和 36 年に復元された記念艦三笠を展示・公開
入込客数：89,170 人

YOKOSUKA 軍港めぐり

- ・ 米海軍や海上自衛隊がある本市の特徴を活かし、市内事業者が軍港めぐりを実施
入込客数：78,219 人

よこすかさかな祭り

- ・ 地場の新鮮で安全な魚介類を直接消費者等によこすかの海が持つ豊かな地域資源を来場者に身近に体験してもらう
【中止】

2 16の推進施策の進捗状況

基本方針 I 市民協働による推進

基本目標 i 多様な主体(市民、市民活動団体、学校等)との協働による取り組みを進めます

推進施策	具体的施策・取り組み	取り組み内容
①地域や学校の中で海に親しめる場をつくらう	ア 横須賀エコツアー推進事業	<p>本市の魅力ある自然観光資源(自然環境に係る観光資源)を守りながら、多くの人々が身近にふれあうことができるエコツアーの実施を推進</p> <p>(平成24年度にエコツアー実施に向けた体制づくりとしてガイド団体による「横須賀エコツアー連絡会議」を設置)</p> <p>(平成26年度にエコツアー事業支援組織として「横須賀エコツアーサポート協会」を設立し、パンフレットの作成や研修を実施)</p>
	イ 第三海堡構造物の展示・公開(夏島都市緑地)	<p>明治時代に建設され、関東大震災によって崩壊した第三海堡(海上要塞)を保存、公開</p> <p>(平成22年度に第三海堡構造物を夏島都市公園内に保存。平成23年度から毎月第1日曜日に一般公開)</p>
	ウ 猿島公園専門ガイド養成講座サポート事業	<p>猿島の自然環境や歴史をガイドする「猿島公園専門ガイド」を平成21年度から養成</p> <p>平成26年度からはガイド協会の自主事業として養成講座を実施、公園管理課でサポート</p>
	エ 走水低砲台跡等活用事業	<p>平成27年度にソフト・ハード面の整備を完了し、平成28年度から「猿島公園専門ガイド」によりガイド開始</p>

別紙2

※組織改正に伴い、所管課は令和3年度の担当課となっております。

状況	令和2年度		実施主体	所管課・団体名	今後の事業予定	過去の事業実績（平成29～令和元年度）
	状況	事業実績				
継続		<ul style="list-style-type: none"> ・猿島、観音崎、大楠・西海岸、長井・荒崎の4つのフィールドにおいてエコツアーを実施 ・実施回数:189回 ・延べ参加人数:2,978人 ・横須賀エコツアー連絡会議を引き続き開催 ・横須賀エコツアーサポート協会によるエコツアー実施団体への支援及び会議の開催 ・夏の小学生向けエコツアーの開催(3プログラム、14回開催190人参加) 	市	自然環境共生課	令和3年度で事業終了	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年 ・エコツアーの実施685回(猿島、観音崎、大楠・西海岸、長井・荒崎の4フィールド) ・「横須賀エコツアー連絡会議」を引き続き開催 ・「横須賀エコツアーサポート協会」によるエコツアー実施団体への支援を実施(周知、ガイド向けの研修ほか) ・長井・荒崎地区での、エコツアー開始に向けた支援の実施 ■平成30年 ・エコツアーの実施810回、延べ参加人数:19,198人(猿島、観音崎、大楠・西海岸、長井・荒崎の4フィールド) ・横須賀エコツアー連絡会議を引き続き開催 ・横須賀エコツアーサポート協会によるエコツアー実施団体への支援及び会議の開催 ■令和元年度 ・エコツアーの実施534回、延べ参加人数:12,486人(猿島、観音崎、大楠・西海岸、長井・荒崎の4つのフィールド) ・横須賀エコツアー連絡会議を引き続き開催 ・横須賀エコツアーサポート協会によるエコツアー実施団体への支援及び会議の開催 ・夏の小学生向けエコツアーの開催(7プログラム、36回開催436人参加)
継続		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第1日曜日に一般公開を実施 ・入場者:205人 ・団体見学:64人(3団体) (新型コロナウイルスの影響により、一般公開・イベントの中止多数) 	NPO法人	アクションおっぱま ※市関係課は公園管理課	継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 ・毎月第1日曜日に一般公開を実施 ・入場者:653人 ・団体見学:277人 ・アイクルフェアでの公開:171人 ■平成30年度 ・毎月第1日曜日に一般公開を実施 ・入場者:350人 ・団体見学:123人(7団体) ・アイクルフェアでの公開:147人 ・Y・フェスタ追浜:242人 ■令和元年度 ・毎月第1日曜日に一般公開を実施 ・入場者:364人 ・団体見学:646人(12団体) ・アイクルフェアでの公開:78人 ・Y・フェスタ追浜:約300人 ・海道ウォーク:約2,000人
完了		平成30年度で第5期生の養成完了	市 市民団体	公園管理課 猿島公園専門ガイド協会	完了	<ul style="list-style-type: none"> ■平成27年度(第4期) ・専門ガイド養成講座をガイド協会主体で実施、公園管理課でサポート10回実施、受講者14人
完了		平成27年度で事業終了	市	公園管理課	ガイドブック等の増刷等	<ul style="list-style-type: none"> ■平成27年度 ・ガイドブック等作成・ガイド研修・アプリの開発・テストツアーの実施・広告宣伝・整備工事・樹木伐採等

推進施策	具体的施策・取り組み	取り組み内容	
①地域や学校の中で海に親しめる場をつくろう	オ クサフグの産卵観察会	平成20年度より、毎年5月下旬から7月上旬の大潮に近い時期に、深浦ポートパーク内の岩場に集まるクサフグの産卵を観察	
	カ うみかぜ画廊の維持管理	うみかぜ画廊の維持管理 (平成21年度に馬堀海岸高潮対策護岸の護岸壁を利用して、市民の手により20点の絵画を制作)	
	キ 横須賀うみかぜカーニバル	海上でエンジン付ゴムボートやモーターボート等のマリンスポーツの体験乗船会等を実施 (平成9年度より実施)	
	ク 海の観察会の実施	スノーケルや箱メガネなどを使った海の生き物の観察会などを実施	

状況	令和2年度	実施主体	所管課・団体名	今後の事業予定	過去の事業実績（平成29～令和元年度）
	事業実績				
継続	実績なし	地元住民 指定管理者	日向自治会 Maris&KMBP 共同事業体 ※市関係課は 港湾管理課	継続して実施	<p>■平成29年度 6月10日実施、160人参加</p> <p>■平成30年度 6月29日実施、185人参加</p> <p>■令和元年度 6月18日実施 170人参加</p>
継続	適切な維持管理を実施	市	港湾企画課	継続して実施	<p>■平成29年度 適切な維持管理を実施</p> <p>■平成30年度 適切な維持管理を実施</p> <p>■令和元年度 適切な維持管理を実施</p>
継続	ZOOMを利用したオンラインイベントを8月9日に開催し、オンラインボートクルージング体験等を実施。 参加者数:72組126名 また、当日の様子などを市公式YouTubeでアーカイブ配信。 他のイベントは新型コロナウイルスまん延防止のため中止	実行委員会	横須賀うみかぜ カーニバル実行委員会 ・港湾企画課 ・(公財)マリンスポーツ財団 ・マスカラブ湘南	継続して実施	<p>■平成29年度 7月15、16日実施 (来場者約6,900名、体験乗船会977名) ・アクアボードのデモンストレーションを実施</p> <p>■平成30年度 7月14日、15日実施 (来場者約5,600名、体験乗船会754名)</p> <p>■令和元年度 6月9日実施、観音崎海岸 (来場者数約500名、体験乗船会111名) ・カヌー等の非動力船の体験乗船会を実施 7月20日、21日実施、うみかぜ公園 (来場者数約12,000名、体験乗船会268名) ・BIGSUP、カヌー、水上オートバイ等の体験乗船会を実施 8月2日実施、海辺つり公園 (来場者数約200名、釣り大会参加者数17組48名) ・釣り大会等を実施 9月1日実施、深浦ボートパーク (来場者数約600名、体験乗船会228名) ・ヨット、ボートクルージング体験及びキッズボート体験乗船会を実施</p>
継続	実績なし	市民団体	よこすか海の市民会議 ※市関係課は 港湾企画課	継続して実施	<p>※市が後援したイベントのみ記載</p> <p>■平成29年度 8月6日 海の観察会(走水)</p> <p>■平成30年度 8月11日 海の生き物観察会(走水)</p> <p>■令和元年度 8月3日 海の生き物観察会(走水)</p>

推進施策	具体的施策・取り組み	取り組み内容	
①地域や学校の中で海に親しめる場をつくろう	ケ 「よこすか海のガイドクラブ」の活動、活動支援	「よこすか海の専門ガイド養成講座」の修了者が平成25年度に設立した「よこすか海のガイドクラブ」の活動・支援	
	コ 横須賀港を巡る船上見学会	横須賀の港の様子や歴史を感じる場を提供するため、横須賀港内を船で巡る船上見学会を実施	
	サ 横須賀港浅海域保全・再生事業	海と触れ合う場の創出や良好な海辺環境の保全・再生のため、横須賀港における浅海域の整備について検討 (平成24年度に整備箇所、利活用や整備の方法などについて研究・検討するため横須賀港浅海域保全・再生研究会を設置)	

状況	令和2年度		実施主体	所管課・団体名	今後の事業予定	過去の事業実績（平成29～令和元年度）
	状況	事業実績				
完了			市民団体 市	よこすか海遊クラブ (旧:よこすか海のガイドクラブ) ※市関係課は港湾企画課	完了	【活動】 ■平成29年度 ・アマモ場での海の生物観察会を支援 ■平成30年度 ・深浦湾わかめの養殖体験を支援 【支援】 ■平成28年度 ・「広報よこすか」への掲載 ■平成29年度 ・なし ■平成30年度 ・「広報よこすか」への掲載 ■令和元年度 ・なし
完了			市	港湾企画課	完了	■平成29年度 9月30日実施、参加者111人 ■平成30年度 9月22日実施、参加者46人 事業終了
継続		市民団体等の協力を得ながら整備後の経過を観察(四季に1回)	市	港湾整備課	整備後の利活用や管理等についての検討並びに関係機関との協議・調整	■平成29年度 ・整備内容や、整備に伴う漁業への影響とその対策について、漁業者や周辺水域利用者などの関係者及び関係機関と協議・調整を実施 ・整備後の利活用や管理等について検討を行い、庁内関係課と協議・調整を実施 ■平成30年度 ・浅海域及び付帯施設の整備を実施(7月～12月) ・整備後の経過観察を実施(1月～3月) ■令和元年度 ・追浜地区での浅海域整備について、浅海域及び付帯施設の整備を実施(7月～12月) ・整備後の経過観察を実施(1月～3月)

推進施策	具体的施策・取り組み	取り組み内容
②海に関するネットワークづくりを進めよう	ア ホームページ「よこすかの環境保全活動」の活用	<p>市民団体、事業者、学校での環境保全活動を紹介するホームページ「よこすかの環境保全活動」の運用</p> <p>インターネット利用による環境情報ネットの設置</p> <p>(平成17年度よりホームページにおいて情報を公開)</p>
	イ よこすかECO通信の発行	<p>市民団体・学校・行政等で構成する「環境教育・環境学習ネットワーク会議」のトライアル事業として、市内の環境関連事業の情報の一元化を図り、それらの情報の発信を行うため情報誌を作成・配布</p> <p>(平成23年度より事業開始)</p>
	ウ 横須賀エコツアー推進事業《再掲》	<p>本市の魅力ある自然観光資源(自然環境に係る観光資源)を守りながら、多くの人々が身近にふれあうことができるエコツアーの実施を推進</p> <p>(平成24年度にエコツアー実施に向けた体制づくりとしてガイド団体による「横須賀エコツアー連絡会議」を設置)</p> <p>(平成26年度にエコツアー事業支援組織として「横須賀エコツアーサポート協会」を設立し、パンフレットの作成や研修を実施)</p>

状況	令和2年度	実施主体	所管課・団体名	今後の事業予定	過去の事業実績（平成29～令和元年度）
	事業実績				
継続	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体等の環境活動を紹介 ・掲載団体数:12団体 (内訳:市民団体8、事業者3、学校1) 	市	環境企画課	継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 市民団体等の環境活動を紹介 ・掲載団体数:12団体 (内訳:市民団体8、事業者3、学校1) ■平成30年度 市民団体等の環境活動を紹介 ・掲載団体数:12団体 (内訳:市民団体8、事業者3、学校1) ■令和元年度 ・市民団体等の環境活動を紹介 ・掲載団体数:12団体 (内訳:市民団体8、事業者3、学校1)
継続	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回(6、9、12、3月)、各3,500部作成 ・市関連施設での配架、市内学校等への配布 	市	環境企画課	<ul style="list-style-type: none"> ■令和3年度 ・年4回(6、9、12、3月)、各3,000部作成 ・市関連施設での配架、市内学校等への配布 	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 ・年4回(6、9、12、3月)、各3,500部作成 ・市関連施設での配架、市内学校等への配布 ■平成30年度 ・年4回(6、9、12、3月)、各3,500部作成 ・市関連施設での配架、市内学校等への配布 ■令和元年度 ・年4回(6、9、12、3月)、各3,500部作成 ・市関連施設での配架、市内学校等への配布
継続	<ul style="list-style-type: none"> ・猿島、観音崎、大楠・西海岸、長井・荒崎の4つのフィールドにおいてエコツアーを実施 実施回数:189回 延べ参加人数:2,978人 ・横須賀エコツアー連絡会議を引き続き開催 ・横須賀エコツアーサポート協会によるエコツアー実施団体への支援及び会議の開催 ・夏の小学生向けエコツアーの開催(3プログラム、14回開催190人参加) 	市	自然環境共生課	令和3年度で事業終了	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年 ・エコツアーの実施685回 (猿島、観音崎、大楠・西海岸、長井・荒崎の4フィールド) ・「横須賀エコツアー連絡会議」を引き続き開催 ・「横須賀エコツアーサポート協会」によるエコツアー実施団体への支援を実施(周知、ガイド向けの研修ほか) ・長井・荒崎地区での、エコツアー開始に向けた支援の実施 ■平成30年 ・エコツアーの実施810回、延べ参加人数:19,198人 (猿島、観音崎、大楠・西海岸、長井・荒崎の4フィールド) ・横須賀エコツアー連絡会議を引き続き開催 ・横須賀エコツアーサポート協会によるエコツアー実施団体への支援及び会議の開催 ■令和元年度 ・エコツアーの実施534回、延べ参加人数:12,486人 (猿島、観音崎、大楠・西海岸、長井・荒崎の4つのフィールド) ・横須賀エコツアー連絡会議を引き続き開催 ・横須賀エコツアーサポート協会によるエコツアー実施団体への支援及び会議の開催 ・夏の小学生向けエコツアーの開催(7プログラム、36回開催436人参加)

基本方針 II 利用と環境の調和

基本目標 ii 市民等が海を身近に感じ、海に親しめる機会を創出します

推進施策	具体的施策・取り組み	取り組み内容
③横須賀港の自然環境を学び、海に触れてみよう	ア 冊子「よこすかのかんきょう」の作成・配付	環境について子ども向けに分かりやすく解説した冊子「よこすかのかんきょう」の配布及び新年度版の作成
	イ 猿島自然観察会	子どもたちに体験型環境教育(フィールドワーク)の機会を提供するため、東京湾唯一の自然島「猿島」で自然観察を実施 (平成20年度から事業実施)
	ウ 観音崎ウォークラリー	小学校を対象に観音崎をフィールドとした自然観察会、海岸清掃、美術館見学を一体化した「観音崎ウォークラリー」の実施

	令和2年度		実施主体	所管課・団体名	今後の事業予定	過去の事業実績（平成29～令和元年度）
	状況	事業実績				
	継続	<ul style="list-style-type: none"> 環境学習冊子「よこすかのかんきょう平成30年度作成版」を希望校に配付(230冊) 	市	環境企画課	継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 <ul style="list-style-type: none"> 環境学習冊子「よこすかのかんきょう平成29・30年度版(3,000冊)」の配布(1,649冊のうち希望校1,245冊) ■平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> 環境学習冊子「よこすかのかんきょう平成29・30年度版」を希望校に配付(600冊) 環境学習冊子「よこすかのかんきょう」を4,000冊作成(平成31年3月) ■令和元年度 <ul style="list-style-type: none"> 環境学習冊子「よこすかのかんきょう平成30年度作成版」を希望校に配付(907冊)
	継続	<ul style="list-style-type: none"> 猿島で自然観察会を実施 11月6日：諏訪小学校5年生(児童53人、先生4人) 11月13日：諏訪小学校3年生(児童53人、先生4人) 	市	環境企画課	継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 <ul style="list-style-type: none"> 6月15日：城北小学校5年生(児童92人、先生5人) 6月22日：野比東小学校3年生(児童62人、先生4人) 7月6日：諏訪小学校3年生(児童55人、先生4人) 7月11日：豊島小学校3年生(児童46人、先生4人) 9月13日：追浜小学校3年生(児童20人、先生3人) 10月3日：田戸小学校5年生(児童94人、先生4人) ■平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> 9月7日：夏島小学校3年生(児童71人、先生5人) 9月12日：追浜小学校3年生(児童18人、先生2人) 9月28日：大津小学校3年生(児童67人、先生5人) 10月12日：豊島小学校3年生(児童44人、先生4人) 10月17日：田戸小学校4年生(児童104人、先生5人) 10月19日：走水小学校3年生(児童6人、先生2人) ■令和元年度 <ul style="list-style-type: none"> 6月25日：夏島小学校3年生(児童66人、先生5人) 9月13日：諏訪小学校3年生(児童45人、先生4人) 9月30日：追浜小学校3年生(児童17人、先生3人) 10月31日：田戸小学校4年生(児童103人、先生6人) 11月22日：豊島小学校3年生(児童39人、先生4人)
	完了	令和元年度で事業終了	市	環境企画課	完了	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 <ul style="list-style-type: none"> 7月7日実施 城北小学校5年生(児童88人、先生6人) 9月29日実施 野比東小学校4年生(児童76人、先生4人) ■平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> 応募なしのため実施せず ■令和元年度 <ul style="list-style-type: none"> 応募なしのため実施せず

推進施策	具体的施策・取り組み	取り組み内容	
③横須賀港の自然環境を学び、海に触れてみよう	エ 身近な自然の保全とふれあい推進事業における自然環境調査	市民が身近な自然と触れ合う機会を提供するため、自然環境調査や自然観察会などを実施するほか、生物多様性への取組に向けた検討を実施	
	オ クサフグの産卵観察会《再掲》	平成20年度より、毎年5月下旬から7月上旬の大潮に近い時期に、深浦ポートパーク内の岩場に集まるクサフグの産卵を観察	
	カ 海の観察会の実施《再掲》	スノーケルや箱メガネなどを使った海の生き物の観察会などを実施	
	キ 横須賀港浅海域保全・再生事業《再掲》	海と触れ合う場の創出や良好な海辺環境の保全・再生のため、横須賀港における浅海域の整備について検討 (平成24年度に整備箇所、利活用や整備の方法などについて研究・検討するため横須賀港浅海域保全・再生研究会を設置)	

状況	令和2年度		実施主体	所管課・団体名	今後の事業予定	過去の事業実績（平成29～令和元年度）
	状況	事業実績				
継続		<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境調査(ホテル、クサフグの産卵) ・自然観察会の開催(鷹取山) 	市	自然環境共生課 自然・人文博物館	令和3年度 ・観察会の開催 ・季節暦の作成	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度から28年度の自然環境調査の結果をまとめ、「横須賀 身近な自然ガイドブック(15,000部)」を作成・配布 ・自然観察会の開催(荒崎公園) ■平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> ・見どころとなる自然サイクルの調査(トウキョウサンショウウオの産卵) ・自然観察会の開催(平作川上流域) ■令和元年度 <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境調査(オオシマザクラ、クサフグの産卵)の実施 ・自然観察会の開催(前田川、めぐりの森)
継続	実績なし		地元住民 指定管理者	日向自治会 Maris&KMBP 共同事業体 ※市関係課は 港湾管理課	継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 6月10日実施、160人参加 ■平成30年度 6月29日実施、185人参加 ■令和元年度 6月18日実施 170人参加
継続	実績なし		市民団体	よこすか海の市民 会議 ※市関係課は 港湾企画課	継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ※市が後援したイベントのみ記載 ■平成29年度 8月6日 海の観察会(走水) ■平成30年度 8月11日 海の生き物観察会(走水) ■令和元年度 8月3日 海の生き物観察会(走水)
継続		市民団体等の協力を得ながら整備後の経過を観察(四季に1回)	市	港湾整備課	整備後の利活用や管理等についての検討並びに関係機関との協議・調整	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 <ul style="list-style-type: none"> ・整備内容や、整備に伴う漁業への影響とその対策について、漁業者や周辺水域利用者などの関係者及び関係機関と協議・調整を実施 ・整備後の利活用や管理等について検討を行い、庁内関係課と協議・調整を実施 ■平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> ・浅海域及び付帯施設の整備を実施(7月～12月) ・整備後の経過観察を実施(1月～3月) ■令和元年度 <ul style="list-style-type: none"> ・追浜地区での浅海域整備について、浅海域及び付帯施設の整備を実施(7月～12月) ・整備後の経過観察を実施(1月～3月)

推進施策	具体的施策・取り組み	取り組み内容
④海や港湾に携わる人々の仕事や役割を知ろう	ア 海・港のお仕事探検事業	海や港に関わる様々な仕事を紹介することで子供たちが海や港に関心を持ってもらうため見学会や体験会を実施
	イ JAMSTEC研究船「よこすか」の一般公開	国立開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)の研究船「よこすか」を久里浜港にて一般公開
⑤魅力あるイベントを開催し、人々の交流を推進しよう	ア 咸臨丸フェスティバル	幕末の安政7年(1860年)1月、日米修好通商条約の批准書を取り交わすため、遣米使節の随伴艦(艦長格:勝海舟)として、浦賀から出航し、日本人初の太平洋横断を成し遂げた「咸臨丸」の壮举を称えるとともに、住友重機械工業(株)浦賀工場跡地の有効利用を通して、地域の活性化を図り、交流人口の拡大を図る
	イ 久里浜ペリー祭	ペリー上陸により、近代日本の幕開けとなった久里浜の地に、文化と伝統を通して地域住民の連帯感及び、ふるさと郷土愛の意識を高めるため、開催する よこすか開国バザール、水師提督ペリー上陸記念式典、日米親善ペリーパレード、久里浜ペリー祭花火大会を合わせて実施
	ウ よこすかさかな祭り	地場の新鮮で安全な魚介類を直接消費者等に『見て・食べて・買って・遊んで・学んで』もらい、よこすかの海が持つ豊かな地域資源を来場者に身近に体験してもらう

状況	令和2年度	実施主体	所管課・団体名	今後の事業予定	過去の事業実績（平成29～令和元年度）
	事業実績				
新規	実績なし	市	港湾企画課	継続して実施	<p>■令和元年度 11月4日実施 住友重機械工業(株)横須賀製造所 住友重機械工業マリンエンジニアリング(株)横須賀造船所 18組36人参加(市内小学校5・6年生対象)</p>
未実施		市	都市戦略課	令和3年度に事業終了	<p>■平成30年度 ・12月9日実施 来場者3,000人</p>
継続	開催中止	市 観光協会	浦賀行政センター 浦賀観光協会 咸臨丸フェスティバル実行委員会	継続して実施	<p>■平成29年度 来場者数約30,000人</p> <p>■平成30年度 来場者数約30,000人</p> <p>■令和元年度 来場者数約28,000人</p>
継続	令和2年度は東京オリンピック・パラリンピック開催予定および新型コロナウイルス感染症の影響のため次のとおりとした ①バザール 中止 ②式典 少人数の招待者による献花を予定していたが雨天中止 ③パレード 中止 ④花火大会 中止	市 観光協会 市民団体	久里浜観光協会(③④) 久里浜商店会協同組合(①) 国際交流・基地政策課(②) ※市関係課は久里浜行政センター(①③④)	継続して実施	<p>■平成29年度 7月15日実施 来場者数 バザール 約10,000人、式典 228人、 パレード 約12,000人、花火 約90,000人</p> <p>■平成30年度 7月14日実施 来場者数 バザール 約8,000人、式典 260人、 パレード 約12,000人、花火 約90,000人</p> <p>■令和元年度 7月13日実施 来場者数 バザール 約6,500人、式典 279人、 パレード 約11,000人、花火 約70,000人</p>
継続	開催中止	実行委員会	よこすかさかな祭り実行委員会 ※市関係課は水産振興課	継続して実施	<p>■平成29年度 実施日:10月1日、来場者数:約17,000人</p> <p>■平成30年度 実施日:10月7日、来場者数:約18,000人</p> <p>■令和元年度 実施日:10月6日、来場者数:約18,000人</p>

推進施策	具体的施策・取り組み	取り組み内容	
⑤魅力あるイベントを開催し、人々の交流を推進しよう	エ 走水のりフェスタ	漁場を身近に感じてもらうと共に、地域ブランドの向上を図り、地産地消を推進するため、走水名産の新鮮な海苔やワカメなどを試食・販売	
	オ クサフグの産卵観察会《再掲》	平成20年度より、毎年5月下旬から7月上旬の大潮に近い時期に、深浦ボートパーク内の岩場に集まるクサフグの産卵を観察	
	カ 客船歓迎イベント	客船寄港の際に客船歓迎イベントや市民への一般開放を実施するとともに、乗船客への市内観光ルートを提供 (平成9年度から事業実施)	
	キ 横須賀うみかぜカーニバル《再掲》	海上でエンジン付ゴムボートやモーターボート等のマリンスポーツの体験乗船会等を実施 (平成9年度より実施)	
	ク 海の観察会の実施《再掲》	スノーケルや箱メガネなどを使った海の生き物の観察会などを実施	

状況	令和2年度	実施主体	所管課・団体名	今後の事業予定	過去の事業実績（平成29～令和元年度）
	事業実績				
完了	平成29年度で事業終了	漁業協同組合	横須賀市東部漁業協同組合 走水大津支所 ※市関係課は水産振興課	平成29年度で事業終了	■平成29年度 実施日：2月24日、来場者数：約1,000人
継続	実績なし	地元住民 指定管理者	日向自治会 Maris&KMBP 共同事業体 ※市関係課は港湾管理課	継続して実施	■平成29年度 6月10日実施、160人参加 ■平成30年度 6月29日実施、185人参加 ■令和元年度 6月18日実施 170人参加
継続	入港実績なし	市	港湾企画課	継続して実施	■平成29年度 入港実績なし ■平成30年度 入港実績なし ■令和元年度 入港実績なし
継続	ZOOMを利用したオンラインイベントを8月9日に開催し、オンラインボートクルージング体験等を実施。 参加者数：72組126名 また、当日の様子などを市公式YouTubeでアーカイブ配信。 他のイベントは新型コロナウイルスまん延防止のため中止	実行委員会	横須賀うみかぜカーニバル実行委員会 ・港湾企画課 ・(公財)マリンスポーツ財団 ・マリスクラブ湘南	継続して実施	■平成29年度 7月15、16日実施 (来場者約6,900名、体験乗船会977名) ・アクアボードのデモンストレーションを実施 ■平成30年度 7月14日、15日実施 (来場者約5,600名、体験乗船会754名) ■令和元年度 6月9日実施、観音崎海岸 (来場者数約500名、体験乗船会111名) ・カヌー等の非動力船の体験乗船会を実施 7月20日、21日実施、うみかぜ公園 (来場者数約12,000名、体験乗船会268名) ・BIGSUP、カヌー、水上オートバイ等の体験乗船会を実施 8月2日実施、海辺つり公園 (来場者数約200名、釣り大会参加者数17組48名) ・釣り大会等を実施 9月1日実施、深浦ボートパーク (来場者数約600名、体験乗船会228名) ・ヨット、ボートクルージング体験及びキッズボート体験乗船会を実施
継続	実績なし	市民団体	よこすか海の市民会議 ※市関係課は港湾企画課	継続して実施	※市が後援したイベントのみ記載 ■平成29年度 8月6日 海の観察会(走水) ■平成30年度 8月11日 海の生き物観察会(走水) ■令和元年度 8月3日 海の生き物観察会(走水)

推進施策	具体的施策・取り組み	取り組み内容
⑤魅力あるイベントを開催し、人々の交流を推進しよう	ケ ANAウインドサーフィンワールドカップ 横須賀・三浦大会	ウインドサーフィンの世界最高峰の大会であるワールドカップを津久井浜で開催することで、これをきっかけに地域の活性化を図る
⑥海のレジャーやレクリエーションの場をつくろう	ア うみかぜ公園の利活用(うみかぜBBQ)	水辺に接したうみかぜ公園において、手軽にバーベキューが楽しめる環境を創出するため、「うみかぜBBQ」を実施 (平成21年度に事業計画策定)
	イ 横須賀うみかぜカーニバル《再掲》	海上でエンジン付ゴムボートやモーターボート等のマリンスポーツの体験乗船会等を実施 (平成9年度より実施)
	ウ 横須賀港浅海域保全・再生事業《再掲》	海と触れ合う場の創出や良好な海辺環境の保全・再生のため、横須賀港における浅海域の整備について検討 (平成24年度に整備箇所、利活用や整備の方法などについて研究・検討するため横須賀港浅海域保全・再生研究会を設置)

状況	令和2年度		実施主体	所管課・団体名	今後の事業予定	過去の事業実績（平成29～令和元年度）
	状況	事業実績				
継続	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催中止	実行委員会	ANAウインドサーフィンワールドカップ横須賀・三浦大会実行委員会 (構成メンバー) ANA、京急、JWA、神奈川県、横須賀市、三浦市 ※市関係課は企画課	継続して実施	<p>■平成29年度</p> <p>5月11～16日に大会を開催し、約33,000人の方が来場された。地元では応援団の結成やご当地賞品の開発など開催効果も見られている。</p> <p>■平成30年度</p> <p>5月10日～15日に大会を開催し、約49,000人の方が来場された。地元ではマリンスポーツの普及活動を行うNPO法人の設立やマラソン大会にマリンスポーツ種目が融合するなど地元の新たな取り組みもはじまってきている。</p> <p>■令和元年度</p> <p>5月10～15日に大会を開催し、約88,000人の方が来場された。津久井浜では近隣ホテルのリニューアルやウインドサーファー仕様の賃貸マンションが建設されるなど、マリンスポーツを起点とした地域の活性化が着実に進んできている。</p>	
継続	指定管理者がうみかぜBBQを実施	指定管理者	サカタのタネグリーンサービス株式会社 ※市関係課は港湾管理課	継続して実施予定	<p>■平成29・30、令和元年度</p> <p>指定管理者が「うみかぜBBQ」を実施</p>	
継続	ZOOMを利用したオンラインイベントを8月9日に開催し、オンラインボートクルージング体験等を実施。 参加者数:72組126名 また、当日の様子などを市公式YouTubeでアーカイブ配信。 他のイベントは新型コロナウイルスまん延防止のため中止	実行委員会	横須賀うみかぜカーニバル実行委員会 ・港湾企画課 ・(公財)マリンスポーツ財団 ・マリスクラブ湘南	継続して実施	<p>■平成29年度</p> <p>7月15、16日実施 (来場者約6,900名、体験乗船会977名) ・アクアボードのデモンストレーションを実施</p> <p>■平成30年度</p> <p>7月14日、15日実施 (来場者約5,600名、体験乗船会754名)</p> <p>■令和元年度</p> <p>6月9日実施、観音崎海岸 (来場者数約500名、体験乗船会111名) ・カヌー等の非動力船の体験乗船会を実施 7月20日、21日実施、うみかぜ公園 (来場者数約12,000名、体験乗船会268名) ・BIGSUP、カヌー、水上オートバイ等の体験乗船会を実施 8月2日実施、海辺つり公園 (来場者数約200名、釣り大会参加者数17組48名) ・釣り大会等を実施 9月1日実施、深浦ボートパーク (来場者数約600名、体験乗船会228名) ・ヨット、ボートクルージング体験及びキッズボート体験乗船会を実施</p>	
継続	市民団体等の協力を得ながら整備後の経過を観察(四季に1回)	市	港湾整備課	整備後の利活用や管理等についての検討並びに関係機関との協議・調整	<p>■平成29年度</p> <p>・整備内容や、整備に伴う漁業への影響とその対策について、漁業者や周辺水域利用者などの関係者及び関係機関と協議・調整を実施 ・整備後の利活用や管理等について検討を行い、庁内関係課と協議・調整を実施</p> <p>■平成30年度</p> <p>・浅海域及び付帯施設の整備を実施(7月～12月) ・整備後の経過観察を実施(1月～3月)</p> <p>■令和元年度</p> <p>・追浜地区での浅海域整備について、浅海域及び付帯施設の整備を実施(7月～12月) ・整備後の経過観察を実施(1月～3月)</p>	

基本方針 Ⅲ 快適な生活環境の形成

基本目標 iii 市民が安心して暮らせるまち、市民が憩える水辺空間を創出します

推進施策	具体的施策・取り組み	取り組み内容
⑦市民の憩いの場となる親水性の高い水辺空間をつくろう	ア 横須賀港浅海域保全・再生事業《再掲》	<p>海と触れ合う場の創出や良好な海辺環境の保全・再生のため、横須賀港における浅海域の整備について検討</p> <p>(平成24年度に整備箇所、利活用や整備の方法などについて研究・検討するため横須賀港浅海域保全・再生研究会を設置)</p>
	イ 長浦地区港湾緑地整備事業	<p>市民が海を身近に感じる水辺空間を創出するため、長浦地区における港湾緑地の整備(看板設置等を含む)について検討</p>
	ウ 港湾環境整備事業(浦賀港水際線プロムナード整備(西岸部))	<p>横須賀港港湾計画に基づき港湾緑地などの港湾施設整備を推進</p> <p>(平成19年度から事業実施)</p>
⑧東京湾を一望できる、潮風を感じる砂浜をまもろう	ア 港湾海岸施設整備事業(海岸侵食対策)	<p>港湾海岸侵食対策事業</p> <p>(平成19年度に事業着手)</p>
	イ 漁港海岸施設整備事業(海岸侵食対策)	<p>漁港海岸侵食対策事業</p> <p>(平成19年度に事業着手)</p>
⑨海とともに安全・安心に暮らそう	ア 大津地区港湾海岸高潮対策事業	<p>港湾海岸高潮対策として、護岸の整備を実施</p> <p>(平成22年度に公有水面埋立願書の作成・漁業補償費の算定・基本設計・土質調査)</p>

	令和2年度		実施主体	所管課・団体名	今後の事業予定	過去の事業実績（平成29～令和元年度）
	状況	事業実績				
	継続	市民団体等の協力を得ながら整備後の経過を観察（四季に1回）	市	港湾整備課	整備後の利活用や管理等についての検討並びに関係機関との協議・調整	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 ・整備内容や、整備に伴う漁業への影響とその対策について、漁業者や周辺水域利用者などの関係者及び関係機関と協議・調整を実施 ・整備後の利活用や管理等について検討を行い、庁内関係課と協議・調整を実施 ■平成30年度 ・浅海域及び付帯施設の整備を実施（7月～12月） ・整備後の経過観察を実施（1月～3月） ■令和元年度 ・追浜地区での浅海域整備について、浅海域及び付帯施設の整備を実施（7月～12月） ・整備後の経過観察を実施（1月～3月）
	継続	土地所有者や土地等利用者との協議調整を実施	市	港湾整備課	田浦地域運営協議会や土地所有者等との協議調整	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 ・土地所有者や土地等利用者との協議・調整を実施 ・田浦地域運営協議会との調整を実施 ■平成30年度 ・土地所有者や土地等利用者との協議・調整を実施 ・田浦地域運営協議会との調整を実施 ■令和元年度 ・土地所有者や土地等利用者との協議・調整を実施 ・田浦地域運営協議会との調整を実施
	休止		市	港湾整備課	休止	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 ・休止（隣接する県道整備に合わせて整備を実施するため、県道を整備する神奈川県の今後の整備実施を待っている状況） ■平成30年度 ・休止（隣接する県道整備に合わせて整備を実施するため、県道を整備する神奈川県の今後の整備実施を待っている状況） ■令和元年度 ・休止（隣接する県道整備に合わせて整備を実施するため、県道を整備する神奈川県の今後の整備実施を待っている状況）
	継続	・海岸侵食対策として、離岸堤を整備（野比海岸）	市	港湾整備課	継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29～令和元年度 海岸侵食対策として離岸堤を整備（野比海岸）
	継続	・漁港海岸侵食対策として、離岸堤を整備（北下浦海岸）	市	水産振興課	継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29～令和元年度 海岸侵食対策として離岸堤を整備（北下浦海岸）
	継続	・海岸高潮対策として、護岸ブロックを整備、上部工を整備	市	港湾整備課	継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29～令和元年度 ・護岸整備

基本方針 IV海環境再生

基本目標 iv水質・底質及び生物多様性・生態系の保全・再生を進めます

推進施策	具体的施策・取り組み	取り組み内容	
⑩海辺や海上の美化を推進し、海に対するマナーの向上を図ろう	ア 海浜地清掃事業	公益財団法人かながわ海岸美化財団と市民ボランティアとが連携し、海岸清掃を実施 (平成3年度に、かながわ海岸美化財団を設立し清掃活動を開始)	
	イ 緑陰道路(馬堀海岸)の清掃	周辺住民の有志が国道16号線の歩道と高潮対策護岸を清掃 (ボランティア・サポート・プログラムを利用し、平成19年度に国、市及び馬堀海岸緑陰道路美化清掃隊が協定を締結)	
	ウ 海岸美化ボランティア活動	「横須賀市まちかど里親制度(アダプト・プログラム)」を利用して、事業者が沿岸美化に協力 (平成19年度から、里親ボランティアが漂着ごみ清掃を実施)	
	エ 馬堀海岸保全施設の清掃	市民及び利用者のための環境整備 (平成18年度に遊歩道部分の清掃開始)	
	オ 走水伊勢町海岸の清掃 (東京湾クリーンアップ大作戦)	近隣の小中学生を中心としたボランティアにより伊勢町海岸を清掃 (平成13年度から事業実施)	
	カ 砂浜美化ボランティア活動	「横須賀市まちかど里親制度(アダプト・プログラム)」を利用して、市民ボランティアが砂浜の美化に協力 (平成14年度から海浜地の清掃を実施)	
	キ 港湾施設管理事業(放置艇対策)	船舶の放置を防止することにより、公共水面等の利用の適正化を図るため、「横須賀市船舶の放置防止に関する条例」を適用し放置艇を保管施設へ移動 (平成22年度に横須賀市船舶の放置防止に関する条例施行)	

状況	令和2年度		実施主体	所管課・団体名	今後の事業予定	過去の事業実績（平成29～令和元年度）
	状況	事業実績				
継続		・公益財団法人かながわ海岸美化財団と連携し、東京湾側8海岸、相模湾側6海岸を清掃 ・清掃実績:361回、105,315kg	公益財団	公益財団法人かながわ海岸美化財団 ※市関係課は廃棄物対策課	継続して実施	■平成29年度 408回 89,375kg ※相模湾側を含む数値 ■平成30年度 432回 90,922kg ※相模湾側を含む数値 ■令和元年度 ・公益財団法人かながわ海岸美化財団と連携し、東京湾側8海岸、相模湾側6海岸の清掃を実施 ・清掃実績 301回193,583kg
継続	清掃活動	年12回	地元住民	緑陰道路美化清掃隊 ※市関係課は土木計画課	継続して実施	■平成29、30、令和元年度 清掃活動 年12回
継続	本港:	1回	事業者	(株)トライアングル ※市関係課は港湾管理課	継続して実施	■平成29年度 本港:1回 ■平成30年度 本港:1回 ■令和元年度 実績なし
継続	遊歩道部分(週1回)、窪地部分(月1回)		市	港湾管理課	継続して実施	■平成29、30、令和元年度 遊歩道部分(週1回)、窪地部分(月1回)
継続	中止		市	港湾企画課 近隣の小中学校 走水町内会 横須賀市東部漁業協同組合ほか	継続して実施	■平成29年度 ・平成29年7月15日(土)に近隣小中学生を中心としたボランティア約260名が、海浜地(走水伊勢町海岸)の清掃を実施。 ■平成30年度 ・平成30年7月14日(土)に近隣小中学生を中心としたボランティア約380名が、海浜地(走水伊勢町海岸)の清掃を実施。 ■令和元年度 ・令和元年7月13日(土)に近隣小中学生を中心としたボランティア約260名が、海浜地(走水伊勢町海岸)の清掃を実施。
完了	実績なし(合意解消)		市民団体	西浦賀クリーン燈明堂 ※市関係課は港湾管理課	完了	■平成29年度 燈明堂:4回 ■平成30年度 燈明堂:4回 ■令和元年度 燈明堂:1回
継続	実績なし		市	港湾管理課	継続して実施	■平成29～令和元年度 実績なし

推進施策	具体的施策・取り組み	取り組み内容	
⑩海辺や海上の美化を推進し、海に対するマナーの向上を図ろう	ク 海面清掃	海面清掃及び海中廃棄物の収集 (平成21年度から、海面清掃及び海中廃棄物の収集を開始)	
	ケ 周辺の自然環境と一体となった指定文化財の適正管理(燈明堂)	草刈、樹木剪定、伐採や清掃などにより史跡環境を保全 (燈明堂跡において、平成30年度からクリーンよこすかのポスター掲示によるごみ捨て禁止の啓発を実施)	
⑪海のゆりかご アマモ場をはぐくもう	ア 横須賀港浅海域保全・再生事業《再掲》	海と触れ合う場の創出や良好な海辺環境の保全・再生のため、横須賀港における浅海域の整備について検討 (平成24年度に整備箇所、利活用や整備の方法などについて研究・検討するため横須賀港浅海域保全・再生研究会を設置)	
	イ アマモの植栽	・市民を募り、深浦湾でアマモの移植を実施 ・アマモ場で海の生き物の観察会を実施	

状況	令和2年度	実施主体	所管課・団体名	今後の事業予定	過去の事業実績（平成29～令和元年度）
	事業実績				
継続	年6回委託清掃を実施	市	港湾管理課	継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 年6回委託清掃を実施 ■平成30年度 年32回委託清掃を実施 ■令和元年度 市による清掃6回 事業者による清掃1回
継続	除草清掃：燈明堂跡1回、 天神島3回	市 市民団体	生涯学習課 天神ヶ島と郷土文化を考える会	継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 園内清掃：千代ヶ崎砲台跡4回 ■平成30年度 除草清掃 1回(7月) ゴミ収集 2回 ■令和元年度 除草清掃：燈明堂跡1回、天神島3回
継続	市民団体等の協力を得ながら整備後の経過を観察（四季に1回）	市	港湾整備課	整備後の利活用や管理等についての検討並びに関係機関との協議・調整	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 ・整備内容や、整備に伴う漁業への影響とその対策について、漁業者や周辺水域利用者などの関係者及び関係機関と協議・調整を実施 ・整備後の利活用や管理等について検討を行い、庁内関係課と協議・調整を実施 ■平成30年度 ・浅海域及び付帯施設の整備を実施(7月～12月) ・整備後の経過観察を実施(1月～3月) ■令和元年度 ・追浜地区での浅海域整備について、浅海域及び付帯施設の整備を実施(7月～12月) ・整備後の経過観察を実施(1月～3月)
継続	中止	市民団体	よこすか海の市民会議 ※市関係課は港湾企画課	継続して実施	<p>※市が後援したイベントのみ記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 8月6日 海の観察会(走水) ■平成30年度 8月11日 海の生き物観察会(走水) ■令和元年度 8月3日 海の生き物観察会(走水)

推進施策	具体的施策・取り組み	取り組み内容	
⑫良好な自然環境を子どもたちに引き継ごう	ア 冊子「よこすかのかんきょう」の作成・配付 《再掲》	環境について子ども向けに分かりやすく解説した冊子「よこすかのかんきょう」の配布及び新年度版の作成	
	イ 「公共施設における自然植生の保全に向けた考え方」の策定	都市公園等の公有地に存在する自然植生を守るために、「公共施設における自然植生の保全に向けた考え方」を策定 (平成24年度に、2か所(諏訪公園、荒崎公園)について策定)	
	ウ 身近な自然の保全とふれあい推進事業における自然環境調査《再掲》	市民が身近な自然と触れ合う機会を提供するため、自然環境調査や自然観察会などを実施するほか、生物多様性への取組に向けた検討を実施	
	エ 横須賀港浅海域保全・再生事業《再掲》	海と触れ合う場の創出や良好な海辺環境の保全・再生のため、横須賀港における浅海域の整備について検討 (平成24年度に整備箇所、利活用や整備の方法などについて研究・検討するため横須賀港浅海域保全・再生研究会を設置)	
	オ 港湾海岸施設整備事業(海岸侵食対策) 《再掲》	港湾海岸侵食対策事業 (平成19年度に事業着手)	
	カ 漁港海岸施設整備事業(海岸侵食対策) 《再掲》	漁港海岸侵食対策事業 (平成19年度に事業着手)	

状況	令和2年度		実施主体	所管課・団体名	今後の事業予定	過去の事業実績（平成29～令和元年度）
	状況	事業実績				
継続		・環境学習冊子「よこすかのかんきょう平成30年度作成版」を希望校に配付(230冊)	市	環境企画課	継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習冊子「よこすかのかんきょう平成29・30年度版(3,000冊)」の配布(1,649冊のうち希望校1,245冊) ■平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習冊子「よこすかのかんきょう平成29・30年度版」を希望校に配付(600冊) ・環境学習冊子「よこすかのかんきょう」を4,000冊作成(平成31年3月) ■令和元年度 <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習冊子「よこすかのかんきょう平成30年度作成版」を希望校に配付(907冊)
完了	平成27年度で事業終了		市	自然環境共生課	完了	<ul style="list-style-type: none"> ■平成27年度 <ul style="list-style-type: none"> 5つの都市公園等の現地調査及び自然植生保全配慮指針を策定し、各施設管理者に自然植生の適切な保全を依頼
継続		・自然環境調査(ホテル、クサフグの産卵) ・自然観察会の開催(鷹取山)	市	自然環境共生課 自然・人文博物館	令和3年度 ・観察会の開催 ・季節暦の作成	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度から28年度の自然環境調査の結果をまとめ、「横須賀 身近な自然ガイドブック(15,000部)」を作成・配布 ・自然観察会の開催(荒崎公園) ■平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> ・見どころとなる自然サイクルの調査(トウキョウサンショウウオの産卵) ・自然観察会の開催(平作川上流域) ■令和元年度 <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境調査(オオンマザクラ、クサフグの産卵)の実施 ・自然観察会の開催(前田川、めぐりの森)
継続		市民団体等の協力を得ながら整備後の経過を観察(四季に1回)	市	港湾整備課	整備後の利活用や管理等についての検討並びに関係機関との協議・調整	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 <ul style="list-style-type: none"> ・整備内容や、整備に伴う漁業への影響とその対策について、漁業者や周辺水域利用者などの関係者及び関係機関と協議・調整を実施 ・整備後の利活用や管理等について検討を行い、庁内関係課と協議・調整を実施 ■平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> ・浅海域及び付帯施設の整備を実施(7月～12月) ・整備後の経過観察を実施(1月～3月) ■令和元年度 <ul style="list-style-type: none"> ・追浜地区での浅海域整備について、浅海域及び付帯施設の整備を実施(7月～12月) ・整備後の経過観察を実施(1月～3月)
継続		・海岸侵食対策として、離岸堤を整備(野比海岸)	市	港湾整備課	継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29～令和元年度 <ul style="list-style-type: none"> 海岸侵食対策として離岸堤を整備(野比海岸)
継続		・漁港海岸侵食対策として、離岸堤を整備(北下浦海岸)	市	水産振興課	継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29～令和元年度 <ul style="list-style-type: none"> 海岸侵食対策として離岸堤を整備(北下浦海岸)

V 活力あるまちの創造

v 横須賀の資源(景観・歴史、ブランドなど)を活かした海の魅力の発信を進めます

推進施策	具体的施策・取り組み	取り組み内容
⑬横須賀港の景観、歴史、遺産に触れよう(学ぼう)	ア 咸臨丸フェスティバル《再掲》	幕末の安政7年(1860年)1月、日米修好通商条約の批准書を取り交わすため、遣米使節の随伴艦(艦長格:勝海舟)として、浦賀から出航し、日本人初の太平洋横断を成し遂げた「咸臨丸」の壮举を称えるとともに、住友重機械工業(株)浦賀工場跡地の有効利用を通して、地域の活性化を図り、交流人口の拡大を図る
	イ 久里浜ペリー祭《再掲》	ペリー上陸により、近代日本の幕開けとなった久里浜の地に、文化と伝統を通して地域住民の連帯感及び、ふるさと郷土愛の意識を高めるため、開催する よこすか開国バザール、水師提督ペリー上陸記念式典、日米親善ペリーパレード、久里浜ペリー祭花火大会を合わせて実施
	ウ 第三海堡構造物の展示・公開(夏島都市緑地)《再掲》	明治時代に建設され、関東大震災によって崩壊した第三海堡(海上要塞)を保存、公開 (平成22年度に第三海堡構造物を夏島都市公園内に保存。平成23年度から毎月第1日曜日に一般公開)
	エ 猿島公園専門ガイド養成講座サポート事業《再掲》	猿島の自然環境や歴史をガイドする「猿島公園専門ガイド」を平成21年度から養成 平成26年度からはガイド協会の自主事業として養成講座を実施、公園管理課でサポート
	オ 走水低砲台跡等活用事業《再掲》	平成27年度にソフト・ハード面の整備を完了し、平成28年度から「猿島公園専門ガイド」によりガイド開始

	令和2年度		実施主体	所管課・団体名	今後の事業予定	過去の事業実績（平成29～令和元年度）
	状況	事業実績				
	継続	開催中止	市 観光協会	浦賀行政センター 浦賀観光協会 咸臨丸フェスティバル実行委員会	継続して実施	<p>■平成29年度 来場者数約30,000人</p> <p>■平成30年度 来場者数約30,000人</p> <p>■令和元年度 来場者数約28,000人</p>
	継続	令和2年度は東京オリンピック・パラリンピック開催予定および新型コロナウイルス感染症の影響のため次のとおりとした ①バザール 中止 ②式典 少人数の招待者による献花を予定していたが雨天中止 ③パレード 中止 ④花火大会 中止	市 観光協会 市民団体	久里浜観光協会(③④) 久里浜商店会協同組合(①) 国際交流課(②) ※市関係課は久里浜行政センター(①③④)	継続して実施	<p>■平成29年度 7月15日実施 来場者数 バザール 約10,000人、式典 228人、 パレード 約12,000人、花火 約90,000人</p> <p>■平成30年度 7月14日実施 来場者数 バザール 約8,000人、式典 260人、 パレード 約12,000人、花火 約90,000人</p> <p>■令和元年度 7月13日実施 来場者数 バザール 約6,500人、式典 279人、 パレード 約11,000人、花火 約70,000人</p>
	継続	毎月第1日曜日に一般公開を実施 入場者:205人 団体見学:64人(3団体) (新型コロナウイルスの影響により、一般公開・イベントの中止多数)	NPO法人	アクションおっぱま ※市関係課は公園管理課	継続して実施	<p>■平成29年度 ・毎月第1日曜日に一般公開を実施 入場者:653人 団体見学:277人 アイクルフェアでの公開:171人</p> <p>■平成30年度 ・毎月第1日曜日に一般公開を実施 入場者:350人 ・団体見学:123人(7団体) ・アイクルフェアでの公開:147人 ・Y・フェスタ追浜:242人</p> <p>■令和元年度 ・毎月第1日曜日に一般公開を実施 入場者:364人 ・団体見学:646人(12団体) ・アイクルフェアでの公開:78人 ・Y・フェスタ追浜:約300人 ・海道ウォーク:約2,000人</p>
	完了	平成30年度で第5期生の養成完了	市 市民団体	公園管理課 猿島公園専門ガイド協会	完了	<p>■平成27年度(第4期) 専門ガイド養成講座をガイド協会主体で実施、公園管理課でサポート10回実施、受講者14人</p> <p>■平成30年度 第5期生の養成完了</p>
	完了	平成27年度で事業終了	市	公園管理課	ガイドブック等の増刷等	<p>■平成27年度 ガイドブック等作成・ガイド研修・アプリの開発・テストツアーの実施・広告宣伝・整備工事・樹木伐採等</p>

推進施策	具体的施策・取り組み	取り組み内容	
⑬横須賀港の景観、歴史、遺産に触れよう(学ぼう)	カ 記念艦「三笠」の展示・公開	明治時代に竣工、大正時代に記念艦として保存、昭和36年に復元された記念艦「三笠」を展示・公開	
	キ YOKOSUKA軍港めぐり	<ul style="list-style-type: none"> ・米海軍や海上自衛隊がある本市の特徴を活かし、市内事業者が「軍港めぐり」を実施 ・近代史を学ぶ機会となると同時に本市の集客にも寄与 (平成20年度に「軍港めぐり」定期航路化)	
	ク 浦賀港周辺地区再整備事業(レンガドック活用イベント)	レンガドックなどの近代産業遺産を実験的に活用するイベントを開催 (平成16年度から事業実施)	
	ケ 横須賀港を巡る船上見学会《再掲》	横須賀の港の様子や歴史を感じる場を提供するため、横須賀港内を船で巡る船上見学会を実施	
	コ 近代化遺跡・近代化遺産の調査および資料整理	開発等に伴う市内近代化遺産の記録保存のための調査	
	サ 第二海堡上陸ツーリズム推進事業	新たな観光資源として「第二海堡」を歴史遺産として地域振興に活用し、官民連携による上陸ツーリズムの早期実現を推進する	
⑭海上アクセスによる交流を促進しよう	ア 客船誘致活動	クルーズ客船等を所有する船社に対して横須賀港への寄港を働きかける (平成9年度から事業実施)	

状況	令和2年度	実施主体	所管課・団体名	今後の事業予定	過去の事業実績（平成29～令和元年度）
	事業実績				
継続	■令和2年 入込客数 89,170人	事業者	(公財)三笠保存会 ※市関係課は 観光課	継続して実施	■平成29年 入込客数 239,128人 ■平成30年 入込客数 237,680人 ■令和元年 入込客数 242,979人
継続	■令和2年 入込客数 78,219人	事業者	(株)トライアングル ※市関係課は 観光課	継続して実施	■平成29年 入込客数 243,333人 ■平成30年 入込客数 257,427人 ■令和元年 入込客数 232,976人
継続	浦賀の魅力創出を目指した レンガドック活用イベントの開催支援 0回(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催せず)	市 市民団体	まちなみ景観課 ドックと浦賀の歴史を愛する会	継続して実施	■平成29～令和元年度 レンガドック活用イベント(4回)開催
完了	平成30年度で事業終了	市	港湾企画課	完了	■平成29年度 9月30日実施、参加者111人 ■平成30年度 9月22日実施、参加者46人
継続	当該地区での実績なし	市	生涯学習課	継続して実施	■平成29～令和元年度 当該地区での実績なし
継続	第二海堡上陸ツアー 令和2年度 上陸回数 40回 上陸者数 1,712人	市 市民団体	観光課 東京湾海堡ツアー リズム機構	継続して実施	■平成30年度 ・国が中心となり設立した「第二海堡ツーリズム推進協議会」に参加した ・同協議会では、9月から11月末にかけて「第二海堡上陸トライアルツアー」を実施、22回遂行された ■令和元年度 令和元年度は事業化され、124ツアー、2699人の受入れをした。
継続	実績なし	市	港湾企画課	継続して実施	■平成29年度 ・おがさわら丸寄港:4回 ■平成30年度 ・おがさわら丸寄港:4回 ■令和元年度 ・おがさわら丸寄港:4回

推進施策	具体的施策・取り組み	取り組み内容
⑮東京湾の海の恵みを地産地消に活かしていこう	ア よこすか海の幸フェア	本市で水揚げされる水産物の地場ならではの食べ方を消費者に繰り返しアピールすることで、横須賀が豊富な魚介類の産地であり、かつ美味しく食べられる場所であることの定着化を図り、地産地消の推進、集客・定住の促進、地域経済の活性化を図る
	イ よこすかさかな祭り《再掲》	地場の新鮮で安全な魚介類を直接消費者等に『見て・食べて・買って・遊んで・学んで』もらい、よこすかの海が持つ豊かな地域資源を来場者に身近に体験してもらう
	ウ 走水のりフェスタ《再掲》	漁場を身近に感じてもらうと共に、地域ブランドの向上を図り、地産地消を推進するため、走水名産の新鮮な海苔やワカメなどを試食・販売
⑩海を活かした産業を活性化しよう	ア 自動車運搬船等によるふ頭の利用の推進	港湾運送事業者が完成自動車の輸出を円滑に行うための港湾の運営
	イ ポートセールスの実施	定期航路誘致などにより、横須賀港の利用を推進するため、船社、荷主などにポートセールスを実施 (平成19年度、大分航路廃止によりポートセールスを開始し、平成24年度から、細島港(宮崎県日向市)と貨物船(RORO船)での定期航路誘致活動を実施)

状況	令和2年度		実施主体	所管課・団体名	今後の事業予定	過去の事業実績（平成29～令和元年度）
	状況	事業実績				
完了	平成29年度で事業終了		市	水産振興課	平成29年度で事業終了	<ul style="list-style-type: none"> ■平成27年度 5回実施 ■平成28年度 4回実施 ■平成29年度 4回実施 ・第13回:参加店29店 ・第14回:参加店32店 ・第15回:参加店31店 ・第16回:参加店31店
継続	開催中止		実行委員会	よこすかさかな祭り 実行委員会 ※市関係課は 水産振興課	継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 実施日:10月1日、来場者数:約17,000人 ■平成30年度 実施日:10月7日、来場者数:約18,000人 ■令和元年度 実施日:10月6日、来場者数:約18,000人
完了	平成29年度で事業終了		漁業協同組合	横須賀市東部漁業協同組合 走水大津支所 ※市関係課は 水産振興課	平成29年度で事業終了	<ul style="list-style-type: none"> ■平成28年度 実施日:2月25日、来場者数:約1,200人 ■平成29年度 実施日:2月24日、来場者数:約1,000人
継続	入港隻数:24隻、係留延日数:26日		市 企業 港湾運送事業者	港湾管理課 (株)スバル 相模運輸倉庫(株)	継続して実施	自動車運搬船の入港実績等 <ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 入港隻数:36隻、係留延日数:39日 ■平成30年度 入港隻数:39隻、係留延日数:47日 ■令和元年度 入港隻数:51隻、係留延日数:57日
継続	船社、荷主等へのポートセールスを実施		市 関係団体	企業誘致・工業振興課 横須賀運輸港湾振興会	継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度 ・船社2社、荷主等へのポートセールスを実施 ・定期航路誘致活動として、久里浜港と細島港(宮崎県)を結ぶ、トライアル寄港を実施 ■平成30年度 ・船社6社、荷主等へのポートセールスを実施 ・横須賀港において、貨物船などの航路開設や客船などの誘致のついての調査、検討を行うとともに、船社に対するセールスを行うため、横須賀港貨物需要調査の業務を委託した ・定期航路誘致活動として、宮崎県日向市と航路実現に向けた意見交換等を行った ■令和元年度 ・船社、荷主等へのポートセールスを実施。 ・国際物流総合展に出展し、横須賀港をPRした。

3 重点施策の進捗状況

ここでは、3つの「重点施策」についての施策や取り組みの進捗状況と今後の進め方についてまとめています。(P.11)

■重点施策1 市民、市民団体、地域、学校などとの協働、あるいは、役割分担により事業を推進します

- ・自然観光資源（自然環境に係る観光資源）を守りながら、多くの人々が身近にふれあえる「横須賀エコツアー推進事業」は、市がエコツアー実施団体とともに実施しており、ツアー実施回数が189回、延べ参加人数が2,978人となりました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から残念ながら実施できませんでしたが、「走水伊勢町海岸の清掃」等の海浜や海上の清掃活動は、例年、市民（市民団体）、事業者や公益財団、学校などさまざまな主体により実施されています。

このように、多くの主体が連携・協力するとともに、各主体の個性を生かした役割分担を意識し、海に関する事業を推進しています。今後も引き続き、市とさまざまな主体がよきパートナーとして連携・協力し合って、種々の施策や取り組みの協働を持続的に進めます。

■重点施策2 人々が海に親しめるよう、浅海域の再生を進めます

- ・平成24年度に設置した「横須賀港浅海域保全・再生研究会」で、追浜地区において浅海域を整備することとし、平成26年度には整備に向けての協定、平成27年度には整備内容についての協定を関係者・関係機関と締結し、平成28年度は、整備内容や整備後の利活用や管理等について、関係者等と協議・調整を実施しました。

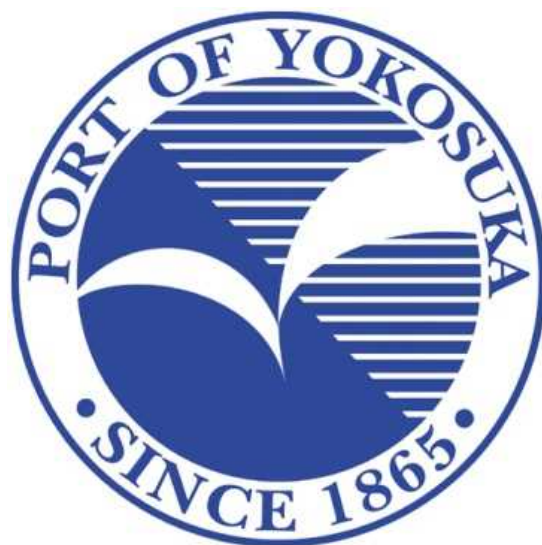
平成29年度は、整備内容や整備に伴う漁業への影響とその対策について、漁業者や周辺水域利用者等と協議・調整を実施しました。平成30年度及び令和元年度は、浅海域及び付帯施設の整備を実施後、経過観察を行いました。令和2度は市民団体等の協力を得ながら経過観察を行いました。

今後は、整備後の利活用や管理についての検討並びに関係者との協議・調整を進めます。

■重点施策3 港湾区域を中心とした地域の活性化に繋がる港湾整備を進めます

- ・長浦地区においては、「横須賀港湾計画」に位置付けている「港湾緑地の整備」について、土地所有者・土地等利用者との協議・調整を行うとともに、地元地域運営協議会との調整を進めています。今後も引き続き地元地域運営協議会や土地所有者等との協議・調整を進めます。

野比～津久井浜周辺においては、海岸浸食対策として離岸堤の整備を、大津地区においては、高潮対策事業として護岸の整備を継続して実施しています。



横須賀港港湾環境計画
令和2年度年次報告書（令和3年度版）
令和4年（2022年）3月

〒238-8550 神奈川県横須賀市小川町11番地
横須賀市みなと振興部港湾企画課
電話：046-822-9802 FAX：046-826-3210
E-mail: pg-ph@city.yokosuka.kanagawa.jp